

図書館だより

図書館運営委員会



新聞を読もう！～新聞週間～

○ 新聞週間とは

新聞週間は、1948年（昭和23）からアメリカ進駐軍（GHQ）の示唆により“ニューズペーパー・ウィーク”と呼応する形で開始されました。社団法人日本新聞協会が毎年10月15日から22日の1週間にわたって催す行事で、読者に新聞の重要性を知らせ、新聞と読者の結び付きを強化すること、同時に、新聞・放送に携わるものが「言論・報道の自由」を守り、いっそうの発展を期する覚悟を新たにすることを目標にしています。新聞への理解を深めてもらうための「新聞週間標語」と題したキャッチフレーズの募集を初め、全国主要都市各地で有識者を交えての講演会・トークショー、並びに映画の試写会などで構成する「新聞週間記念の集い」が行われています。



○ 新聞の歴史



17世紀初めから19世紀後半まで、日本では社会的事件が起きたときに、文字または文字と絵でそのニュースを伝える1枚刷のビラが大都市で売られており、これを「読売」または「瓦版」と総称されていました。近代的な新聞は、1861年から外国人が外国人のために外国語で発行したものが始まりです。

1868年（明治1）になると、日本人による、日本国内の論、ニュースを中心とした新聞が、東京、大阪、京都、長崎などに誕生しました。

定期刊行の日本最初の近代新聞は、1871年刊行の『横浜毎日新聞』で、同紙は日本最初の日刊紙でもあります。1872年には『東京日日新聞』（現在の『毎日新聞』の前身）、『郵便報知新聞』（『報知新聞の前身』）、現在最古の地方紙『峡中新聞』（『山梨日日新聞』の前身）など後の有力紙が続々と創刊されました。

一方、漢文調の当時の新聞に対し、婦女子、町人を対象にした平仮名で、漢字には振り仮名が付き、正論よりも通俗的な社会ダネを重視した小型新聞も現れ（小新聞と呼ばれた）、人気を集めました。代表的なものが1874年（明治7）11月創刊の『読売新聞』で、79年1月大阪で創刊された『朝日新聞』もこの系統の新聞です。

（参考図書：日本大百科全書、世界大百科事典）



学生による！

Book review



『罵詈雑言辞典』
著者 奥山益朗
発行社 東京堂出版
1996年6月25日発行
【請求番号：814.4/057】
図書館3階伝統ゼミ選書

罵詈雑言とは、砕いて言えば悪口のこと。罵詈は汚い言葉で相手の悪口を言うことで、雑言は様々な悪口のことであるようだ。ここに記すのも何かと心苦しいような言葉も多いが、いくつか紹介をしたいと思う。「キザ」という言葉を聞いたこと、あるいは耳にしたことがあるだろう。気取って嫌味である人間のことを言うあの言葉だ。漢字では「気障」と表記するのだが、語源は「気障り」とであるという。なるほど、直球だと感じられる。また、このような言葉も載っている。「ぱあ」。使用例は「今までやっていたことが全てペアになった」など。言っている意味は分かる。では「ぱあ」とは何だ？と今更考えもしないだろう。普段何気なく使用している言葉に実はとんでもない意味が込められていることに気付いたり、全く知らないような悪口を知る機会になったりする。もっともこの本に載せられている罵詈雑言を使うこと無く日常を過ごす方が好ましい、ということは言うまでも無い。

長期貸出の返却期限は

9月27日(木)です。

まだ返却していない学生は
早めに返却ください。

秋の夜長、読書の秋到来！
とっくんは、長編小説を
読んでみようかな♪

